

# ひろまちだより

Hiromachi Ryokuchi Park in City of Kamakura



## contents

- |    |           |
|----|-----------|
| 特集 | ゴマダラチョウ   |
| 連載 | 樹木区日誌     |
| 催事 | 里山さんぽ etc |
| ほか | 園路復旧の状況   |

そろそろ冬ごもりです



アシ原に残されたオオカマキリの卵囊(左)寒さを防ぐため鱗片でおおわれたコナラの冬芽(右上)地表に張りついて越冬するロゼット(右下)



エノキの葉の裏で越冬するゴマダラチョウの幼虫

ひろまちだより 2019年12月号

発行 鎌倉広町パートナーズ

鎌倉広町緑地管理事務所  
鎌倉市津 1133 TEL: 0467-32-5112  
<http://www.kamakurahiromachi.com/>



デザイン・編集 向田智也



角状のとげが愛らしい  
ゴマダラチョウの幼虫



思わず登りたくなる枝ぶりの大エノキは広町緑地のシンボルツリーの一つです。コナラなどにまじって、広町緑地のいたるところに見られる大きな落葉広葉樹です。樹名板に木の名前が書いてあるので、じっと観察してみてください。

エノキは広いスペースがあると、横に枝を伸ばしたこんもりとした形で大きくなるため、江戸時代には一里塚の目印として植えられました。今でも国道沿いでは高さ20mくらいに成長した大木を目にすることもあります。また、ゴマダラチョウ、アカボシゴマダラ、タマムシ、オオムラサキ(国蝶、広町では見られません)などが産卵し幼虫が葉を食べるので、昆虫が良く集まる木です。



エノキの樹形(広町緑地の大エノキ)



エノキの葉を食べるオオムラサキの幼虫

### エノキの葉の裏で越冬するゴマダラチョウの幼虫

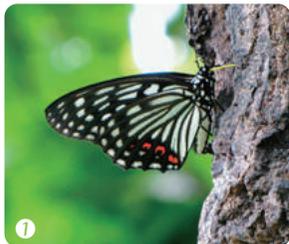
*Butterfly larva wintering behind the leaves*

エノキを食草とするゴマダラチョウの幼虫は、冬になると茶褐色に変色し、木の幹を下りて落ち葉の裏などで越冬します。春になると、新芽の時期にあわせて再び木に登り、エノキの葉を食べながら脱皮を繰り返し、初夏から夏にかけて成虫になります。



成虫はクヌギの樹液などを吸う

#### ⚠️ゴマダラチョウによく似たアカボシゴマダラ



①



②

①後翅の外縁に鮮やかな赤い斑紋があるアカボシゴマダラ。中国から人為的に持ち込まれたものと考えられている。②エノキの葉を食べるアカボシゴマダラの幼虫。背中突起が4つあり、突起が3つのゴマダラチョウの幼虫と区別できる(近縁のオオムラサキの幼虫は突起が4つ)。

### イベント情報

冬のイベントとして、里山さんぽ「冬の野鳥観察(1月25日)」、「大桜鑑賞会(3月28日)」を行うほか、2月23日には「そば打ち教室」を開催します。

里山さんぽは参加費200円、予約は不要となっています。そば打ち教室は予約が必要です。詳細については、管理事務所までお問い合わせください。



そば打ち教室

### 管理事務所よりお知らせ

台風15号および19号により、広町緑地も多くの被害を受けました。現在も園路の一部が通行止めとなっており、全面復旧に向けて整備中です。詳しくは広町緑地ホームページをご覧ください。